

# そよかぜ通信



教育出版

# 生活・総合のこれから

新潟青陵大学教授  
中野啓明

生活科・総合通信

# そよかぜ

通信

2018年  
秋号

## 目次

### ●巻頭言

#### 生活・総合のこれから

—「ハイブリッド型の学習活動」の組織化—  
.....2

新潟青陵大学教授

中野啓明

### ●授業実践①

#### 環境をテーマにした 総合的な学習を

おもしろくするには? .....4

鹿児島県指宿市立今和泉小学校 教諭

柏木辰公

### ●授業実践②

#### 個の活動の充実が 集団の学びの向上につながる

.....8

横浜国立大学教育学部附属横浜小学校 教諭

藤代崇行

### ●授業実践③

#### 2年間を見通して 「遊び」「おもちゃ」単元を

デザインする .....12

札幌市立北九条小学校 教諭

佐藤 恵

### ●こだわり館嘆符!④

#### 静岡県富士山世界遺産センター

.....16

企画総務課 教育普及班 主幹 植野秀樹

主査 白鳥 稔



新学習指導要領が公示されて、1年が過ぎた。

この間、コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースとしての資質・能力を重視したカリキュラムへの転換、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた

授業改善、カリキュラム・マネジメントの重要性といった、新学習指導要領の趣旨に関する理解は進んではきているといえるであろう。

しかしながら、こうした新学習指導要領の趣旨を具現化するための授業実践の積み上げは、これから本格化していくというのが現状ではなからうか。

中でも、現場の先生方からは、「『主体的・対話的』ということはわかるが、『深い学び』がよくわからない」という声を度々耳にすることがある。管見ではあるが、この言葉が日本で広く認知されるようになっていったのは、2015年1月に刊行された松下佳代氏の編著による『ディープ・アクティブラーニング—大学授業を深化させるために—』（勁草書房）以降のことのように思われる。この本は、副題が示すように、主として大学での授業を取り上げているものではある。だが、海外での研究成果を紹介しながら、「浅いアプローチ」と「深いアプローチ」とを対比して取り上げていることは、興味深い点でもある。例えば、知識を断片としてとらえたり、



表紙イラスト:牛山 歩

## —「ハイブリッド型の学習活動」の組織化—

事実をひたすら暗記したり決まった手続きをひたすら繰り返したりするという「浅いアプローチ」に対して、「深いアプローチ」では既有的な知識や経験に関連づけたり、共通するパターンや原理をみつけたりするというものである。

生活科や総合的な学習の時間においても、「主体的・対話的な」活動を通じて、子どもが「何を学び、何ができるようになったか」を「深いアプローチ」から明らかにしていくことが求められているといえよう。

具体的には、生活科や総合的な学習の時間においてこれまでも大切にしてきた、試行錯誤や繰り返し対象にかかわるという活動を位置づけるということだけにとどまらず、子どもたちの「見方・考え方」がどのように深まったのかを子ども自身に自覚を促すための手立てを考える必要がある。そのためにも、以前の経験と関連づけたり、比較したり、新たな問いを考えてみるというように、授業の終末時における「振り返り」の内実を考えていくことが必要であろう。さらに、1時間単位ではなく、単元全体での学習を俯瞰するといったメタ認知的な「振り返り」活動を位置づけていくことも必要であろう。

また、特に生活科の授業では、授業の終末時に「書く」という文字言語による活動だけに頼っているのは、子どもたちが実際の活動の中で生じた知的な気づきを見逃してしまうこともあるかも知れない。例えば、公園での活動において、同じ場において同じ対象を見ていたならば言葉によって相手にも伝わるであろうが、違う場にい

たならば相手に伝えることも困難である。教師が公園での活動の全体の様子をカメラで撮影することは可能ではあろうが、一人ひとりの子どもが見ていた対象までは追跡不可能である。

こうした問題点を克服するためにも、デジタルカメラやタブレット端末を子どもに与え、カメラやビデオ等の機能を活用して映像として記録していくという方策も考えることができる。とはいうものの、子どもに与えるだけの台数を揃えることはできていないという反論が上がってくるのが予想される。こうした反論に対応するためには、BYOD (Bring Your Own Device) 方式の活用を挙げることができる。この場合、BYODにも対応したクラウドベースのプラットフォームを利用するなどの方策も併せて必要となる。

こうしたデジタル機器を活用する一方で、生活科や総合的な学習の時間ならではの、子どもたちの五感に訴え、実感を伴うような教材と学習活動を工夫していくことも忘れてはならない。特に、視覚・聴覚にかかわることはデジタル化が比較的行いやすいかも知れないけれども、触覚・嗅覚・味覚に関してはデジタル化が容易ではなく、子どもたちの具体的な体験に基づくしかないものであるからである。

デジタル機器とアナログ的な体験活動を組み合わせる往還するような学習活動、いわば「ハイブリッド型の学習活動」を組織した上で、子どもたちの思考がいかにか深まっていったのかを検証していくことが求められているといえよう。

# 環境をテーマにした総合的な学習をおもしろくするには？

鹿児島県指宿市立今和泉小学校 教諭  
柏木 辰公

## 1 はじめに

「総合的な学習の時間（以下総合）ってもっと自由に考えてもよいのではないか。」教員8年目の私は時々感じることもある。本校は年間指導計画に基づき、実践を積み上げているが、追究対象は教師側から与えられるものが多い。例えば、3年は「食」、4年は「福祉」などである。それはそれでよいのだが、子供の頭の中に「もっとしてみたい。」「もっとこうしたい。」という思いや願いをもてない実践をしていたと反省していた。

子供に対し、育てたい資質・能力というゴールはもちつつ、子供と共に創りあげる総合の授業はできないかと考え、実践を行った。

## 2 単元について

本校の総合の年間計画において、5年は「環境」と「うみべの教室」、「郷土教育」で計画されている。「うみべの教室」とは、鹿児島県水産技術開発センターの主催事業であり、魚さばきやワカメ作りを体験している。

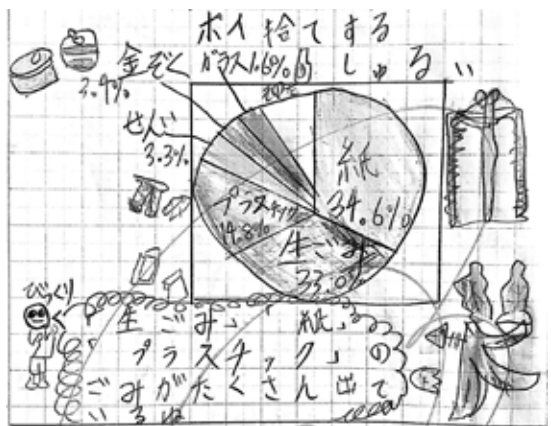
例年、「環境」では、主に世界で起きている環境問題について調べ、新聞などにまとめる活動をしていた。しかし、その環境問題に対して、子供が自分のこととして考えられなかったり、ダイナミックな体験活動が少なかったりするなどの課題があると感じていた。

そこで、昨年度は、身近なごみである生ごみから肥料を作るコンポスの体験を通して、環境について学ぶことができないかと考えた。そして、「環境」という大枠はありつつも、「命」や「食」、「郷土」にもつなげていくことができないかと考えた。

## 3 単元の実際

### (1) 導入

まず、「現在、どんな環境問題があるか。」を付箋に書かせた。そして、「地球にとって重大・あまり重大ではない」、「自分たちで解決できそうか、難しそうか」の4つの視点で、グループで整理した。その中に、「ポイ捨て」の意見が多かったので、①「ごみ問題を今年度はテーマにすること」、②「今すぐ解決できないことかもしれないが関心をもつこと」を決定した。家庭学習では下のように調べ学習をしてくる子供もいた。





次に、「このまま環境問題が進めばどうなるか」を話し合わせた後、ごみ問題の現状を調べる学習を行った。指宿市や家庭で出るごみの量や生ごみの割合を提示し、「生ごみが減れば、ごみは少なくなるのではないか」という意識をもたせた。

そして、3・4校時に家庭科の学習で調理実習をし、5・6校時に総合の授業を実施するようにした。そうすることで、調理実習で出てきた生ごみを教材にできるからである。そして、生ごみを捨てずに生かす方法はないかを考えさせた後、「肥料になる」という子供の発言から「コンポスト」を紹介し、作成することとした。

## (2) コンポストの作成

鹿児島大学教育学部浅野陽樹准教授に來校していただき、コンポスト内での微生物の働きや微生物には「水」「生ごみ」「適度な温度」が必要であるという育て方などを丁寧に教えていただいた。微生物に対して、「気持ちが悪い。」というイメージをもっていた子供も多かったが、微生物は環境次第で生ごみを分解してくれるよい存在であることに気付いた子供もいた。微生物に愛着をもたせるために、「きんちゃん」という名前をつけた。

## (3) 生ごみの投入、観察

生ごみは火曜と金曜に入れることを決めて、生ごみを投入していった。入れた生ごみを用紙に記入し、それと同時に、手のひらサイズの顕微鏡で観察やスケッチをしていった。

### 感想

- 今日、きんちゃんが初めて見えました。赤い色をしていて、小さくてかわいかったです。
- 生ごみを入れるだけで、本当に肥料になるのか疑問です。普通の土と変わらない気がします。日々、生ごみをあげる体験を通して、微生物に関する興味関心が高まっていった。

※週に2〜3回  
※1回につき、お玉1はいいくらいい

月	日	曜日	入れたもの
5	2	火	たまねぎ、もやし、わかじけ、にんじん
5	10	水	たまごのから、緑の野菜(にまつな)
5	16	火	緑の野菜(レタス)
5	23	火	キャベツ
5	26	金	たまごのから、レタス、のしん
5	30	日	ごみこ
6	2	金	じゃがいも
6	13	火	えのき、へた、きゅうり
6	16	金	レタス
6	20	火	ピーマンのへた、キャベツ
6	23	金	にんじん
6	27	火	えのき
7	4	火	レタス
7	7	金	かぼち、たまねぎ
7	11	火	キャベツ、きゅうり
7	14	金	にんじん



#### (4) 実験

夏休みが終わり、コンポストの中を確認した。本当に肥料になっているのかをハツカダイコンを使って生長実験を行った。下のように普通の土(校内で



とれたもの)とコンポストの土の割合を変えて実験した。その結果、コンポストで作った土の方が生長がよく、肥料になったことがわかった。

- ①コンポスト100%
- ②コンポスト75%・普通の土25%
- ③コンポスト50%・普通の土50%
- ④コンポスト25%・普通の土75%
- ⑤普通の土100%

#### 感想

- 今日、きんちゃんの手で肥料ができていたか実験をしました。もし、あまり成長していなかったら肥料になっていないということだと思います。私の予想では割合が2/4くらいだと思います。理由はあまり多すぎてもだめだと感じるからです。肥料ができていて生長してほしいです。
- 生ごみは減るし、肥料はできるし、よいことだらけだ。
- 肥料ができたので、何か作って食べたい。そして、出たごみをコンポストにしたい。

#### (5) 野菜作り

せっかく作った肥料だから、「何か作りたい。」という思いをもった。そこで、野菜を育てることにした。何を育てるかは子供たちに選ばせた。野菜の種類は大根・にんじん・サンチュ・山東菜など多岐にわたった。



#### (6) 発表

自分たちだけが生ごみやごみ問題を考えるだけではなく、他の人にも自分たちがしてきたことやごみ問題の現状を知ってほしいという思いをもてたので、学習発表会において、11月までに取り組んだ内容を劇にして発表した。また、ちらしを作成し、地域へ呼びかけた。



#### (7) 調理実習

作った野菜をどのように食べるか話し合わせると「鍋」と「みそ汁」いう意見が出たため、どちらも作ることに決定した。「うみべの教室」で2月にワカメを収穫するため、ワカメを利用する計画を立てた。また、これまでの家庭科の学習を生かし、栄養面において、「野菜とワカメだけの鍋でよいのか。」「タンパク質が足りないのではないか。」等を考えさせ、タンパク質をとるために、肉類を入れた方がよいということになった。本学級には肥育農家の保護者がおり、その方から牛肉の無償提供をいただいた。



## 環境をテーマにした総合的な学習をおもしろくするには？

### 感想

- 今日コンポストの肥料を使って作った野菜を使って、調理実習をしました。私はミニ大根を作りました。意外と大きくなってびっくりしました。料理はとてもおいしかったです。出たごみを再利用すれば、またできると思います。私たちにとってはごみかもしれないけれど、きんちゃんたちにとっては大事なえさなんだと思いました。
- はじめは微生物は気持ち悪い存在だと思っていたけれど、今はちがう。微生物の力はすごいと思う。他にも微生物の力を使うことはあるのだろうか。
- 生ごみは家庭ごみの中でも多いそうです。この生ごみを少なくすれば、ごみは減っていくかも知れません。自分たちだけではなくて、他の人にも呼びかけていきたい。

### (8) 牛舎見学

食べた牛肉もおいしかったと感想をもつ子供も多かったため、鹿児島黒牛が日本一になったことを紹介したところ、牛のことをもっと知りたいという思いをもった。そこで、保護者の牛舎見学に行くことになった。実際の黒牛の大きさに驚きつつも、鹿児島黒牛が日本一になった秘密や牛の育て方の工夫、「命をいただいて、私たちは生きているということを感じてほしい」という作り手の思いを知ることができた。

学んだことを「う新聞」にまとめた。



### 感想

- 今日はIさんの牛舎に見学に行きました。今日思ったことは「感謝」です。命をいただいていることや作ってくださっている人に感謝しながら食べたいです。また、牛のうんちからも肥料になると教えてもらいました。これも微生物たちのおかげだそうです。命はつながっているような気がしました。



### (9) 水質環境授業

生ごみは微生物のおかげで肥料になったが、ごみ以外のものはどうかという疑問が生まれたため、県環境保全協会や市役所の方々に来ていただき、水がきれいになる仕組みや環境に優しい洗剤の作り方を教えていただいた。そこでも、微生物の働きできれいになっていることを知り、大変驚いていた。最後に、微生物を用いた洗剤をプールに投入し、次年度のプール清掃に役立てた。



### 4 終わりに

「環境問題」という視点だけで考えると、調べ学習が中心になってしまう傾向があるように感じる。今回、コンポストの取り組みも「環境」であるし、そこから、食育・命の教育・キャリア教育などに広がる活動があってもよいのではないかと思う。今後、子供の思いや願いを大切にしたい実践に取り組みたい。

# 個の活動の充実が 集団の学びの向上につながる

横浜国立大学教育学部附属横浜小学校 教諭  
藤代 崇行

## 1 本校の研究理念と総合単元学習

本校では、長年にわたり「子どもにとって本当に必要な学びとは何か」を模索し続けてきた。子どもは自ら学ぶ力を持ち、前向きに追究していく能動的な存在であるという考えをもとにして、目の前の子どもにとって価値があり、目の前の子どもが学習の主体となる学びを創造しようと新たな単元開発や教育環境づくりに取り組んできた。

また、学校は子どもが生きる上で大切な力を身につけ、自己を表出して思う存分学ぶことができる場所である。子どもにとって新たな事象に出会い、新たな発見ができる魅力的な場所でもある。そこには失敗や戸惑いがつきものである。それを自分なりに思考し、判断し、表現し、乗り越えていく。友達と関わることで、より思考を深め、的確な判断をし、乗り越えたときの達成感や充実感を味わっていく。そのような子どもの姿が見られたとき、子どもが発揮している力を「共に学びをつくりあげる力」と称し、その育成に努めてきた。

昨年度は、このような経緯や考え方をもとに、研究主題を「共に学びをつくりあげる子どもの姿を追い求めて」とした。そして、その主題にせまるために必要なことは、授業実践を通し、個の「共に学びをつくりあげていると考えられる姿」を見とり、共有していくことと考えた。そこで、『『個と材』『個と個』『個と集団』の関わりを生む見とりと手立て』という副題を立てることとなった。

本校では、「総合単元学習」を大事にしている。学級のアイデンティティーとなり、年間の学びを進めていく上での中核たるものと考えている。子どもが材にのめり込んだとき、課題を見つけ、解決する

ために試行錯誤を重ね、人と関わりながら学びを深めていく姿が、ダイレクトに表れるであろうし、そこで得た学び方や育まれた資質・能力は、他の学びの場面でも生かされることになるであろうからだ。

そのように中核たる総合単元学習であるが、個人的に違和感をもつ部分があった。それは、個よりも集団に重きを置いているように感じたことである。「みんなで一つのことに取り組んでいく。みんなで目標や課題達成に向けて取り組んでいく。」というのが、3年生以上の子どもによる総合単元学習のとりえ方である。間違いではないのだが、そこに「個」の存在が感じられない印象を受けていた。主体的に自分なりに思考し、判断し、表現し、乗り越えていくことができる子はそれなりにいる。しかし、そのような子に身を委ね、流されていくような子が少なくない、という印象を受けていた。

一人ひとりが思いをもち、それぞれが課題解決・目標達成に向けて、活動に没頭し、力を発揮していかなければ、本当の意味での「共に学びをつくりあげる」ということにはならないのではないか。そのように感じていた。これは、前述した昨年度の校内研究の方向性とも合致する部分が大いと考えている。

そのような思いで、総合単元学習の「材」を考えていった。

## 2 個と集団が育つ「材」の選定

材として扱ったのは、校内の敷地の一部である「学級園」という場所である。この場所は何年も前に、各クラスが野菜などを育てられるようにつくられた、農園のような場所である。だが、校舎の近くに





学級園づくりに励む子どもたち

野菜を育てられる場所が新たにつくられると、学級園を使うクラスがなくなり、何年もの間、誰にも使われずに荒れ放題の状態になっていた。

なぜ、学級園という場所を材にしようと考えたのか。その理由は、大きく分けると二つある。一つは、荒れ果てた学級園という場所を、よりよく活用できるように、みんなで力を合わせて進んでいけるだろうと考えたからである。狭からず、広からず、見晴らしがよく緑いっぱいこの場所を、「公園のようにしたい。」などと、想像力を働かせながらつくりあげていこうと想定した。前述したように、みんなで一つのことを成し遂げようと言っても、個々が主体的でなければ、よりよいものにはならない。そこで、個々が自分の課題意識や目標をもち、それに向かって壁にぶつかりながらも試行錯誤していけると考えたのが、学級園を材にした二つ目の理由である。学級園には、メダカが生息する池がある。夏みかんがたわわに実る樹木がある。野菜や花を育てるスペースがある。学級園の中にある「小さな材」にそれぞれが着目し、それをもとに主体的に活動していけるだろうと考えた。

つまり、学級園を材にした理由は、「集団の育ち」と、そのもととして欠かせない「個の育ち」が期待できると考えたからである。

### ③学級園と出会い、 繰り返し関わろうとする子どもの姿

4年生の学級担任になって、新年度明け2日目。「先生は、学級園という、これまで使われてこなか

った場所の管理担当になりました。今からみんなを連れて行くから、どうやって活用していけばいいか、先生といっしょに考えて欲しいんだ。」と、子どもたちに伝えて連れて行った。学級園に過去数回入ったことがある子が半数。あとは入ったことのない子が半数くらいだった。「池にメダカとオタマジャクシがいるよ!」「なんだろう?この花は?」「草がたくさん生えてるね。」などと、興味津々に話している。ふと気がつくと、何人かの子は草取りをしている。何人かの子は、敷地内にある倉庫の片づけをしている。何人かの子は、通路の砂埃をほうきで掃いている。多くの子がこの場所に関心を示し、すでに「やること」を見つけている!と感じた。何人もの子が、「また来よう!」と言ったことで、2回目、3回目の活動へとつながっていったのである。

繰り返し学級園に行くうちに、ある子は自宅からブラシやスポンジを持ってきた。倉庫を掃除するために。また別の子は、ドライバーのセットを持ってきた。敷地の中央部を囲んでいる、朽ちた木の柵を解体するために。その、木の柵についてだが、解体してばらけた材木を、ある子が池に架けて一本橋にした。これが後に「橋づくり」という活動になるきっかけとなった。また、解体し切れず残っている柵に、敷地に繁茂していた植物の蔓をひっかけ、ブランコにした。これが後にブランコやターザンロープをつくる「遊具」という活動になるきっかけとなった。

教師は、子どもがやりたいことのために、自分で道具や材料を持ってくる行為や、学級園にあるもので、何かを生み出し、始めようとする姿を大いにほめて、共に喜んだ。それは、個々が主体的にアクションを起こす姿だからである。そのように、自ら動き出す姿をそのまま継続して欲しいという願いから、活動後には振り返りカードを書くよう促し、励ましやアドバイスのコメントを添えた。また、活動後に感想交流をする時間をとったり、その時の板書を掲示したりすることにより、個や集団としての学びが、いかに推移しているかを見えるようにした。

#### 4 「総合単元学習」は「<sup>がっきゅうえん</sup>楽Q園」に！

学級園での活動が「総合単元学習」の学習となったのは、6月に入ってからである。それまでは、学級園での活動を進めながら、クラスの「総合単元学習」は何にするかを話し合ってきた。話し合いを重ねるうちに、「楽園のような場所にしたい。」「楽しくきれいな場所にして、学校のみんなを呼びたい。」「やることがいっぱいあって、次々目標を設定できる。」「自分たちのオリジナルでつくっていける。」と、学級園で活動する価値・目標・見通しなどが露わになっていった。当初違うことを「総合単元学習」でやろうと考えていた子も、学級園に繰り返し行き、みんなとその場所で活動する意味や価値を共有するうちに、「総合単元学習は学級園！」と考え直すようになった。

学級園と同じ読み方だが、単元名は「楽Q園」である。「楽園のような場所にしたい。」とある子が言ったことにみんなが同意した。その「楽」の字を充てた。また、『『ひろっぱ』(敷地中央部の場所の呼び名)を囲っている柵をとった方がよいか?』など、その都度子どもたちから解決すべき問題が生み出さ

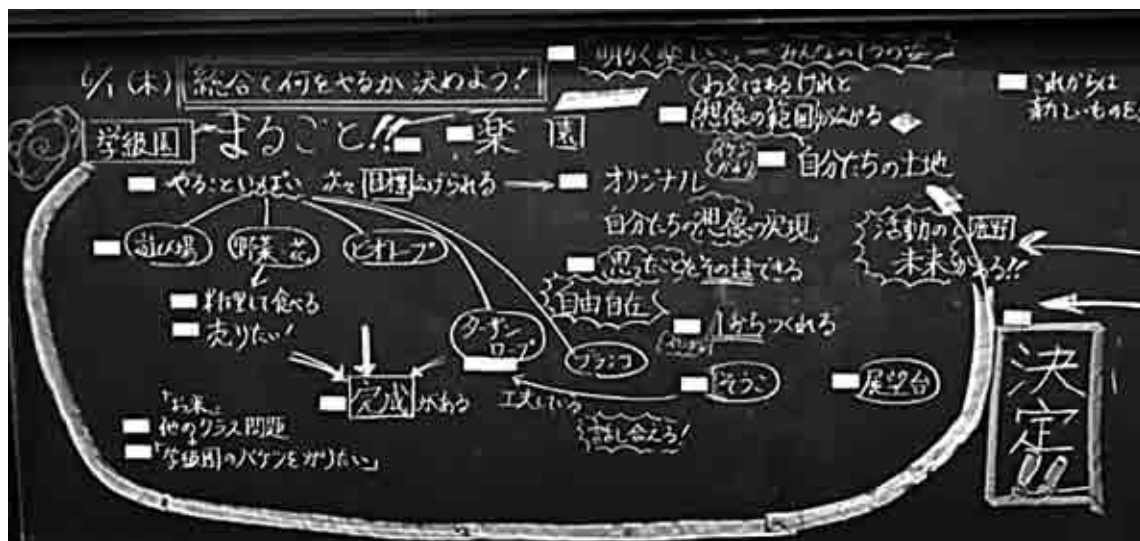


20mを越えるターザンロープ

れる。このような、自分たちにとって切実な問題を解決して欲しいという教師の願いから、「Q(クエスチョン)」を単元名に充てた。

#### 5 個の活動の充実が集団の学びをつくる

夏休みが近づくと、学級園には自生した草が繁茂するようになった。何度かみんなで草取りをする時間をとったのだが、大半の草は取り切れずに残ってしまう状況だった。草は子どもたちの活動を妨げるようになった。子どもたちの中で、校内の敷地を整備してくれる用務員のHさんに、草取りをお願いし



一人ひとりの切実な願いが「楽Q園」に

## 個の活動の充実が集団の学びの向上につながる

たらどうか、という話題が挙がるようになった。

自分たちの活動をスムーズに進められるようにHさんをお願いしたいと考える子がいる一方で、自分たちの学級園なのだから、自分たちで草取りしなければいけない。だからHさんをお願いしたくないと考える子もいた。お願いしたいと考えるにしろ、お願いしたくないと考えるにしろ、どの子も学級園が自分たちにとって大事な場所であると考えていることが表れていた。ただ、このままでは議論が平行線で結論が出ない。もっと自分たちの活動を深く見極めて判断することが、この問題の答えを出すために必要だと、教師は考えていた。

そんな時、「ツリーハウス」という活動をしていた子が、「木の奥に庭をつくらうと考えて、その草を取ろうとしたんだけど、根っこが深くで自分たちでは取り切れない。だからそこ（に限って）は、Hさんをお願いしたいんだ。」「木の正面は玄関みたいにしたい。通路の両脇は草があった方が入り口だと分かりやすいから、両脇の草はそのままにしてほしい。」と発言した。これらの発言は、自分たちの活動の見通しをもち、そこから具体的に草取りについての考えを表明するものだった。「ツリーハウス」の子の発言をきっかけに、「それぞれの活動グループで、草を取って欲しいところ・取って欲しくないところを考えてみよう。」ということになり、自分たちの活動を見つめ直し、具体的に考えることができるようになった。

「自分たちではどうしてもできないと判断したことについては、専門家の協力を得ることも、（自分たちの）総合の進歩」という、ある子の発言にみんなが共感し、後日、用務員のHさん呼んで、草を取って欲しいところ・取って欲しくないところを各グループが伝えることになった。

「ツリーハウス」のメンバーが、日頃から活動に没頭していたからこそ表れた考え方であり、その価値が他のグループに伝わり、みんなの考えが深まった場面だととらえている。

### ⑥おわりに

個が学習活動に主体的に関わっているとき、その個は充実感を味わっていると考えている。充実感を得ている個は、もっと自分を高めていきたいと考えると同時に、「友達はどんなことをしているのだろうか？」と、他者や周囲を意識して、関わりをもとうとしたり、そこから自分に必要なことを取り入れようとしたりする。ということ、本校で5年ほど実践を重ねて感じ得ていた。

「遊具」という活動をしてきた2人は、1月にターザンロープを完成させた。その表情は充実感や自信に満ちあふれていた。だが、それに満足することなく、次に考えたことは、より長いターザンロープをつくることだった。そこで、前出した「ツリーハウス」のメンバーに、その話をもちかけ、自分たちが使っていた木と、「ツリーハウス」が拠点としている木の間約30メートルを結ぼうと画策したのだった。いわゆる「コラボ」をしようと考えたのである。実現に向けての動きは早く、自分たちで使える予算を確認して、頑丈なロープと滑車を購入して、早速、木と木をロープでつないだ。そして、向こうの木までは行かないまでも、20メートル強を子どもが優雅に空中移動できるようになった。「楽Q園」の学習の最後は、全校の児童に声をかけ、「楽Q園開放」として、自分たちの成果を見せ、体験してもらうなどした。ターザンロープはクラスのみんなが誇れる「目玉アトラクション」となった。

個人的に課題は山のようにあるが、子どもたちはそれぞれ、主体的に材と関わり続け、友達と関わり高め合いながら、自分たちがめざした「楽Q園」を、共に作りあげていけたのではないかととらえている。それぞれの個が主体的に充実した活動をすれば、自ずと他者と関わり、お互いを高め合い、集団の学びの向上につながっていく、ということが言えるのではないかと改めて考えている。

# 2年間を見通して 「遊び」「おもちゃ」単元をデザインする

札幌市立北九条小学校 教諭  
佐藤 恵

平成30年6月16日に日本生活科・総合的学習教育学会の全国大会で、2年生の「動くおもちゃ」の授業をさせていただいた。そこで改めて、1年時から培った遊びやおもちゃと向き合う姿勢や、工夫への見通しをもつ力を考えてカリキュラムを構成することが大事だと考えた。ここでは、「1年生から2年生へとつなぐ遊び・おもちゃ単元のデザイン」と、今回授業した「動くおもちゃの授業の実際」についてお伝えする。

## 1年生

対象や対象へのかかわりへの気づきを大事に

<p>夏</p> <p>水でっぽうで遊ぼう</p> <p>わざ</p>  <p>シャボン玉で遊ぼう</p>	<p>秋</p> <p>風で遊ぼう</p> 	<p>冬</p> <p>米ぞりで遊ぼう</p> <p>道具</p> 
---	--	---

みんなで同じおもちゃを作って遊ぶ

### 7月～9月

#### なつだ あそぼう (12) いきものと なかよし (3)

- みずで あそぼう (6)
  - ・計画・遊んでみる・改良する・振り返る
- シャボン玉で あそぼう (6)
  - ・計画・遊んでみる・改良する・振り返る
- 中央ローンであそぼう (3)
  - 8月～中央ローン探検…夏の虫や草花を探したり、自然で遊んだりする

おもちゃの第1弾は、空き容器で作る水鉄砲である。入学して初めてのおもちゃ単元。「わざ」「道具」といった観点で工夫すると見通しをもつことができ、もっと楽しくなるということを経験から実感できるように構成した。「強く押すと水が勢いよく出るよ。」といった「わざ」、「穴の空ける場所を変えると、水の出方が変わるよ。」と

いった「道具」の工夫を目指す。ここで大事なのは、「楽しい」ということである。「〇〇を変えたら、水の跳び方が変わった。楽しいな。」「もっと工夫して遠くまで跳ばしたい。」「友達とどっちが遠くまで跳ぶか競争しよう。」など、「自分が働き掛けると楽しくなる」といった実感をするのである。そして、教師の関わりによって工夫のよさを自覚する、これを2年間通して続ける。

横の穴から水を出しても楽しいな。新しい「どうく」の工夫だよ。



ストローを通すと、もっと跳ぶかも。





ゆっくりそっと持ち上げると、大きいシャボン玉ができるよ。

練習したら、手でもシャボン玉ができるようになったよ。



風と仲良くなると、何もしなくてもシャボン玉ができるよ。



風のおもちゃにつなげる

夏の遊び第2弾はシャボン玉遊びで、構成は次の2段階である。最初に、透明のプラコップとストロー、教師手作りのシャボン液を少しだけ与える。すると、子どもたちは、液がなくなるまで吹き方やストローを工夫して楽しみ、シャボン玉遊びの特性を掴んでくる。そこで、「今度は大きなシャボン玉を作りたいな。」といった願いをもち、そのための「道具」を工夫する。ハンガーやうちわなど、思い思いの道具を工夫していった。「道具が四角くても四角いシャボン玉はできない。」など、予想と結果の違いなどから、おもちゃ作りの楽しさに浸ることを大切にしたい。

10月～11月

### たのしい あき いっぱい (15)

- あきをさがそう (2)
- かぜであそぼう (8)
- はっぱやみであそぼう (3)～中央ローン  
10月末か11月頭～中央ローン探検…**「どんぐり集め」**  
秋の自然物を探したり、それで遊んだりする
- みつけたあきをしょうかいしよう (2)

秋の單元では、まず「秋の証拠」を探す中で風と出会い、風でたくさん遊んだ後に、葉や実で遊ぶという構成にした。外での活動が寒くならないように「風のおもちゃ」を先にして、葉が色付いたりどんぐりがたくさん落ちたりする時期をねらって、「葉や木の実の遊び」を後にした。

風の遊びでは、3つのおもちゃと4つの風との相性を比べながら、「風さんと仲良くなる」ことを目指した。「かざわ」「かざぐるま」「たこ」を作ったらいつでも試せるように、うちわ(そよかぜさん)、送風機(よわかぜさん)、扇風機(つよかぜさん)、業務用送風機(スーパーつよかぜさん)を用意した。

葉や木の実の遊びでも、「どんぐり貯金箱」を用意し、いつでも子どもたちが作りたいときに作り、試したいときに試す場をつくった。保育園の子を招待する活動は、自分が楽しんだおもちゃで喜んでもらおうという、相手意識が芽生えるきっかけとなった。



風さんレーダーで風さんを見つけて、袋でつかまえたよ。

### つくろう あそぼう (9)

- おもちゃをつくろう (5)
- みんなであそぼう (4)

保育園の子に遊んでもらうために、話し掛けるのを頑張ったよ。

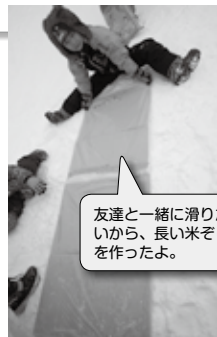


1月～3月

### ふゆを たのしもう (12)

- ふゆをさがそう (3)～中央ローン・学校
- ゆきやこおりであそぼう (6)
- 米ぞりであそぼう (3)

冬には、米袋などを利用して手作りの「米ぞり」作りをする中で、どんな材料や作り方だと自分の思うようなそりになるのか、どんな乗り方だとスピードが出るのかなど、雪質や坂の状況とそりの相性などを追究した。

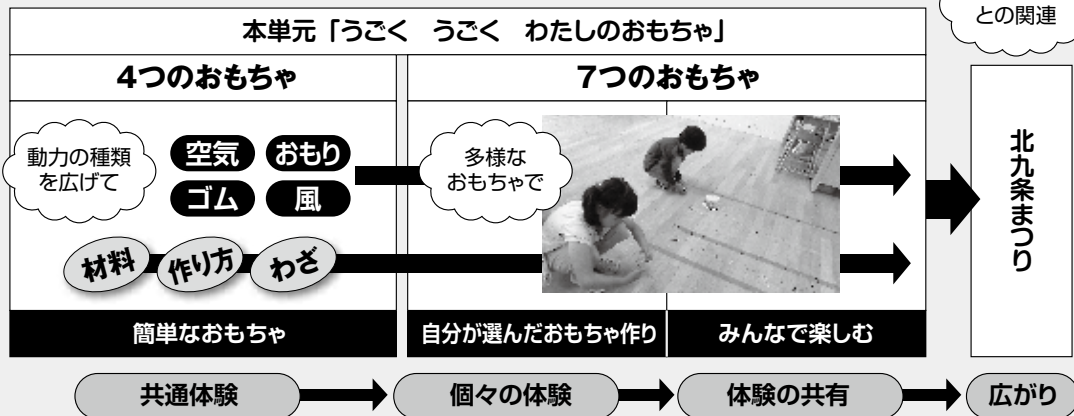


友達と一緒に滑りたいから、長い米ぞりを作ったよ。

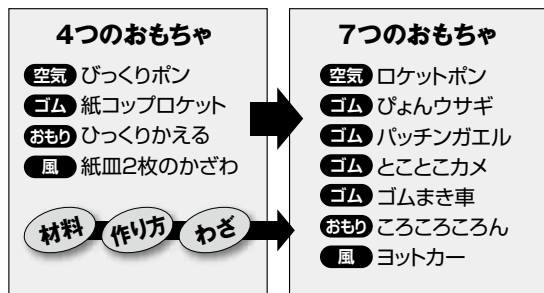
## 2年生

### 動力に着目・多様なおもちゃ・相手意識

学校行事との関連



#### 子どもの思いを大切に活動構成



導入では4つの動力の簡単なおもちゃを共通体験

子どもたちが工夫しながら主体的に活動できるおもちゃ

2年生では、扱う動力の種類を増やし、多様なおもちゃの中から自分で選んだおもちゃを作る。色々な素材を扱うことで、自分のおもちゃと友達のおもちゃを比べたり、関連付けたりしながら、より動きの面白さや、不思議さを意識した活動にしていく。そして、12月にある「北九条まつり」では、異学年にも楽しんでもらえるように、さらに相手意識をもった活動に発展していく。

この単元では「子どもの思いを大切に活動構成」になるように、7つのおもちゃを扱った。この7つのおもちゃは、子どもたちが工夫しながら主体的に活動できるかを十分に吟味して決定したものである。例えば、「ロケットボン」では教科書の作り方と少し変えて、ペットボトルを用いた。そうすることで、ペットボトルの大きさを変えたり、跳ばすものを工夫したり、押し方を変えたりと、工夫の余地が広がることをねらった。

単元の導入では、7つのおもちゃにつながるように、4つの動力で動く簡単なおもちゃを共通体験することにした。

ここでは、できるだけシンプルで、おもちゃ自体の動きの面白さを感じられるようにした。共通体験することで、違うおもちゃであっても、友達の発見や困りを交流するときに自分に引き寄せて考えることができ、子ども同士の関わりも生まれやすいと考えたからである。

#### 5月～6月

##### うごく うごく わたしのおもちゃ (15)

- うごく おもちゃをつくらう (3)
- もっと くふうしよう (7)
- あそび方をくふうしよう (5)

#### 11月～12月

##### うごく うごく わたしのおもちゃ2 (5)

- きたくじょうまつりにむけてくふうしよう (5)

#### 1月～2月

##### 冬をもっと楽しもう (15)

- スノーランドの計画を立てよう (3)
- スノーランドを開こう (6) ～グラウンド・北九条の森 (つどいむでの体験と関連させる)
- さっぽろ雪まつりつどいむ会場に行こう (4)
- 活どうをふりかえろう (2)

## 2年間を見通して「遊び」「おもちゃ」単元をデザインする

子ども同士の関わりが生まれるように3つの場を設定した。比べることを大事にし、どこをどう変えたら動きが変わったのか、無自覚だった気づきを教師が見取り、子ども自身が気付けるように働き掛けをした。また、「材料」「作り方」「わざ」という観点を設けて、追究の見通しをもたせた。「ひみつ」を色分けされた付箋に記録し、何を追究するかが見えやすいようにした。気づきが自覚化され、友達の気づきと関連付けられ、新たな自分自身への気づきが生まれると考えた。



さらに、全体交流を大事にし、みんなで発見のよさや困りを共有した。そのために、4つの簡単なおもちゃの共通体験、他のおもちゃ同士での関わりも大事にした。すると、動力の違うおもちゃであっても、共通する工夫があることに子どもたちが気づき、子ども同士で気づきを関連付けていった。

振り返りには、「友達のよいところ」「できるようになったこと」「これからのこと」などを書いた。動くおもちゃでたくさん工夫ができた自分、もっと工夫できる可能性があること、作り方を教えてあげられる自分に気付く姿が見られた。12月の「北九条まつり」や、冬の「スノーランド」では、さらに相手意識をもって活動していく。

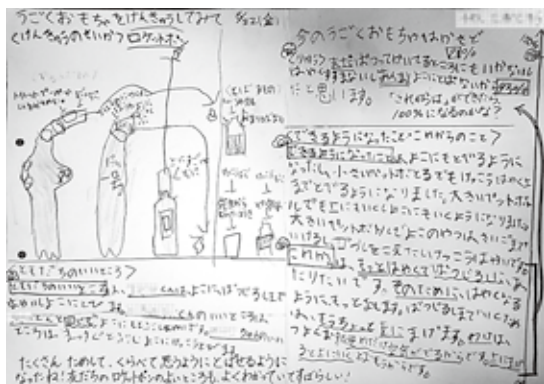


全体交流で気づきを共有



掲示板で子どもの気づきを可視化

このように、2年間を通して、発達段階に合わせた遊びやおもちゃづくりを行うことで、見通す、試す、工夫するといった創造的に考えること、また、おもちゃの面白さや不思議さを見付ける、友達と比べるといった、分析的に考えることができる。このような活動を繰り返すことで気づきの質が高まり、さらに、カードや付箋に書いたり、友達や教師に伝えたりすることで、自分自身の成長への気づきにつながっていくと考える。そして、思いや願いを実現させていく意欲や自信、新たな事に挑戦していこうという姿を育てていきたいと考えている。



振り返り～研究の成果、友達よさ、これからのことなどをまとめた

# 富士山は日本人の自然観や文化の象徴

企画総務課 教育普及班 主幹 植野秀樹  
主査 白鳥 稔

## ●世界遺産とは

日本にある世界遺産関連の話題として、昨年の「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群に続いて、今年7月には、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産が世界遺産に登録されたというニュースが記憶に新しいところです。日本にはすでに、22件の世界遺産がありますが、そもそも「世界遺産」とはどのようなものなのでしょうか。

それは、私たち人類の大切な財産として守っていく必要のある、どんな時代・どんな国の誰が見ても文句なしの「素晴らしい価値（普遍的な価値）」をもつ貴重な文化的遺産や自然環境で、1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）」に基づいて、世界遺産リストに記載（登録）されているものです。世界遺産を有する国（世界遺産条約の締約国）が、責任をもって「保護保全・整備活用」することにより、国際社会と協力して私たち人類の共通の財産を「次世代に継承」していくことを目的としています。

世界遺産は大きく「自然遺産（生態系や風景などが特徴のある自然の地域・特徴的な地理的形成物や脅威にさらされている生態系のある地域等）」、「文化遺産（記念工作物・建造物群・遺跡等）」と、両方の価値を併せもつ「複合遺産」の3種類に分類されます。

## ●世界文化遺産としての富士山の価値

富士山は、2013(平成25)年6月に「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」として、世界文化遺産に登録されました。皆さんの中には、自然の営みである富士山



静岡県富士山世界遺産センターの外観は「逆さ富士」を表現している。

がなぜ文化遺産なのか、と思う方もいるのではないのでしょうか。富士山の文化遺産としての価値を簡単に説明します。

## ●信仰の対象

平安時代(794年～1184年の約400年間)、富士山は信頼性の高い史料によると6～7回も噴火をしています。約60年に1回は噴火をしていたわけです。当時の人々は噴火を恐れ、遠くから拝む(=遙拝)場所を作って祈りました。そのような場所は、富士宮市山宮に「山宮浅間神社」として現存しています。これは、富士山を神様として祀っている、つまり噴火する富士山を「神霊が宿る山」と考えていたということになります。噴火が収まった鎌倉時代以降には富士山は山岳宗教の修行(=登拝)の場となり、江戸時代の中頃以降は「富士講」という民衆信仰の集団が隆盛し、庶民の間にも富士登山が広まりました。富士講の人々は、信仰の拠りどころとして「富士塚(石や土を盛って富士山を模したもの)」を作りましたが、現在でも関東地



方には富士塚が点在し、地域の祭事場となっています。また、今では毎年7～9月上旬の開山期間に、20万人以上の人たちが行く富士登山も、元をたどれば「登拝」に端を発していることになります。

日本の歴史の中で、富士山は常に信仰の対象であり、富士山に神霊が宿っているという考え方が形を変えながら現代に受け継がれ、日本人の心の拠りどころになっていること、日本人の自然観や文化が富士山という自然の営みによって形成されたということが、世界に認められた富士山の世界文化遺産としての価値の一つです。

## ●芸術の源泉

成層火山かつ独立峰である富士山は、どこから見てもほとんど同じ形の美しさ（<sup>はちめんれいろう</sup>八面玲瓏）を私たちに見せてくれます。その姿は、日本固有の詩歌・物語文学に描かれるなど、古くからさまざまな芸術活動の題材となってきました。私たちは、学校の教科書や百人一首など、富士山を詠んだ和歌に必ずどこかでふれていると思います。また、お馴染みのかぐや姫のお話（竹取物語）の最後にも、富士山が登場します。一般的な結末では、かぐや姫は月へ帰りますが、静岡県富士市の伝承では、かぐや姫は富士山の頂上へ帰る、とされています。

また、19世紀前半の葛飾北斎や歌川広重など、江戸時代に成立した浮世絵の代表的な絵師は、富士山を題材とする作品を残しました。それらは、近・現代の西洋美術にも大きな影響を与え、「ジャポニスム」と呼ばれる日本趣味の流行を生み出す契機をもたらし、西洋画の中に題材として描かれるだけでなく、絵の構図の取り方そのものを変えてしまうほどでした。葛飾北斎の『富嶽三十六景』のうち、「神奈川沖浪裏」が特に有名ですが、〈荒れ狂う荒波に翻弄される小舟と、その奥に静かに佇む、雪を頂いた富士山〉と言われれば、皆さんも絵が頭に浮かぶのではないのでしょうか。

国内外のさまざまな芸術作品の題材となり、芸術を通して日本及び日本文化の象徴と

なったことが、世界に認められた富士山のもう一つの世界文化遺産としての価値です。

この2つの価値を具体的に証明できる25箇所の文化資産（山体の他、深い関わりのある周辺の神社や登山道、風穴、溶岩樹形、湖沼等）を「構成資産」として、世界文化遺産「富士山」が成立しています。

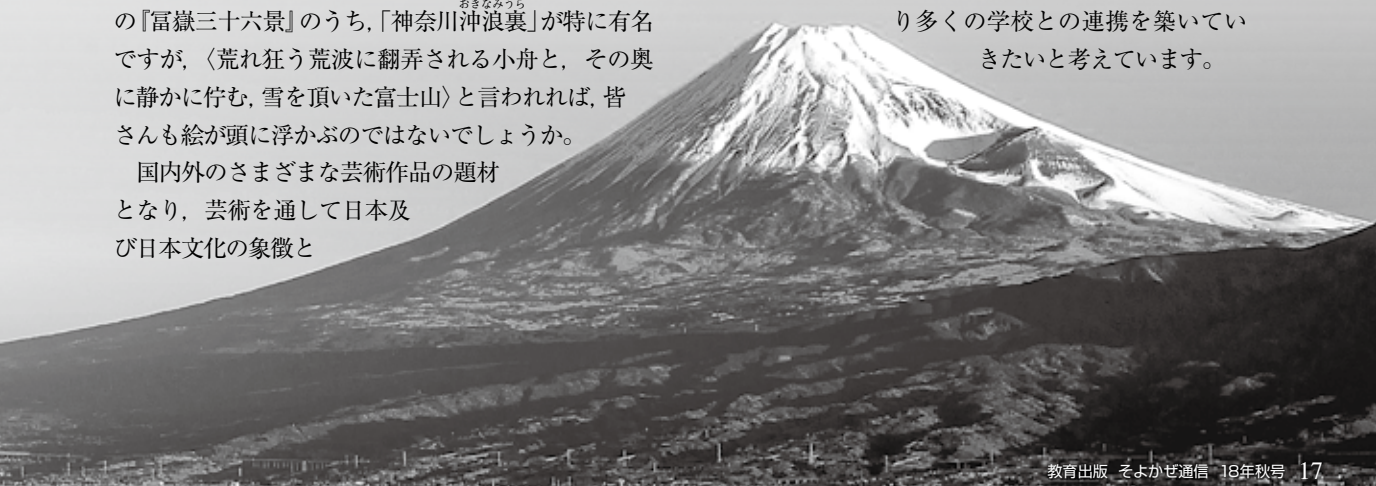
## ●静岡県富士山世界遺産センター

静岡県富士山世界遺産センターは、平成29年12月、世界文化遺産に登録された「富士山」を、後世に守り伝えていくための拠点施設として開館いたしました。センターでは、「永く守る」、「楽しく伝える」、「広く交わる」、「深く究める」の4つの柱を事業として、国内外の多くの方に歴史、文化、自然など、富士山を多角的に紹介しています。

研究体制・教育普及体制（平成30年7月時点）としては、専任の研究員3名と教育委員会から出向した教員が教育スタッフとして2名在籍し、歴史・美術・文学等、さまざまな観点から富士山等に関する調査研究を行い、その成果を展示や館内講座で伝えたり、教育旅行の受入、学校の課外活動や生涯学習の場において出前講座を実施したりして、世界文化遺産「富士山」を学ぶ機会を提供しています。

## ●学校教育との連携例

静岡県の小学校では、5年次に富士山周辺の宿泊施設で野外活動を行う学校がありますが、何校かの学校で事前学習として出前講座を実施していただいています。また、「総合的な学習の時間」で取り組む環境学習の導入に、富士山の保全に関する課題を含めた内容の出前講座を実施することもあり、さまざまな形でより多くの学校との連携を築いていきたいと考えています。



# 展示物・見どころの紹介

## 1. 外観 (写真→p.16, 裏表紙)

特徴的な外観の建物は「逆さ富士」を表現しています。前面の水盤には建物が映り込んで「富士山」の姿が現れるだけでなく、見る角度によって本物の富士山や大鳥居が写ります。静岡県産材「富士ヒノキ」の木格子は、大小8,000個のピースを約2ヶ月間かけて組み上げました。内部はらせん状のスロープになっており、内壁面には映像が写し出されるなど、デザイン性と実用性を兼ね備えた設計になっています。

## 2. 登拝する山 (写真→裏表紙)

らせんスロープは全長193mあり、静岡県の特徴である海拔0mからの富士山のさまざまな景色のタイムラプス(コマ撮り画像を動画に編集したもの)映像や風景画を見ながら、影絵演出と共に擬似登山体験をすることができます。富士山に直接登ることで、神仏の御利益を得ようとした「登拝」は、信仰の姿から近代登山へ姿を変えましたが、私たちにとって、富士山は特別な存在の山であることには変わりはありません。

## 3. 展望ホール

らせんスロープを上りきると展望ホールに到達します。天気が良ければピクチャーウインドウ(額縁のように設計された窓枠)越しに本物の美しい富士山の姿を仰ぎ見ることができます。

開放感のあるテラスからは、雄大な富士山の裾野や構成資産の1つである富士山本宮浅間大社の境内の一部をご覧いただくことができます。



## 4. 「荒ぶる山」

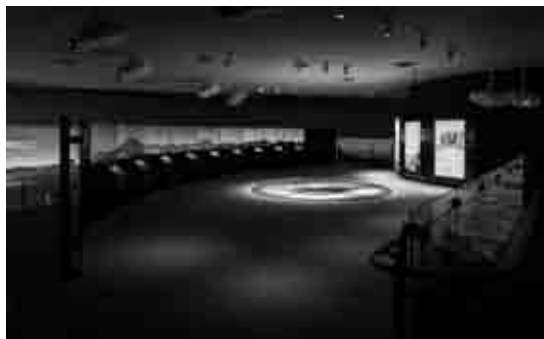
「荒ぶる山」は、富士山の火山としての富士山の成り立ちをテーマとしています。

デジタル地球儀「触れる地球」では、ダイナミックなプレートの動きや大陸移動の様子も交えて解説します。



3D映像で、プレートの境界に沿って、日本の火山が一系列に形成され、伊豆・小笠原の火山島が列をなしており、その先端に富士山が形成される様子をご覧ください。また、アニメーションで富士山の生い立ちをわかりやすく表現しています。

## 5. 「聖なる山」



「信仰の対象」である富士山。富士山への信仰をキーワードに、富士山のもつ普遍的な価値について、紹介しています。

八葉九尊はちようくせんマルチモニターは、「聖なる山」富士山への信仰の中心部分である富士山頂の世界観を表現しています。

江戸時代の登山者の様子は「富士曼荼羅図」により読み取ることができます。また、貴重な「富士講」の信仰行事を紹介しています。

## 6. 「美しき山」

「芸術の源泉」である富士山。このゾーンでは、美術や文学に表された富士山について、紹介しています。中央付近の富士山絵画を紹介するコーナーでは、日本のみならず

広く海外に散在する江戸時代の富士山図から 150 点ほどの傑作を精選したうえ画派ごとに概観します。

代表的な作品については原寸大で紹介し、実作品を前にしたような臨場感を楽しんでいただけます。



## 7. 「育む山」

このゾーンでは、駿河湾から高山帯までの生態系を紹介します。富士山は、駿河湾の海底から測ると、6,000mを超える高山です。山頂の雪や雨は地面に染み込み、海底からも湧き出し、この水がさまざまな生命を支えています。富士山の地層と背景の空、富士山周辺の地形を表現するこの壁面と床面の左官は、左官技能士の狭土秀平氏により仕上げられています。富士山の背景の空は、赤土が使われています。



## 8. 「受け継ぐ山」

このゾーンでは、活火山、心に根付く山、登山する山など、富士山のさまざまな顔を見ながら、人と富士山の未来



を考えていきます。

富士山は、昔も今も人の心に根付き、親しまれる一方で、活動を続ける恐ろしい火山でもあります。

ここでは、最後の大規模噴火となった宝永噴火の影響や、保全の取り組みの紹介など、世界遺産となった富士山を後世に継承するための意識醸成を図る展示を行っています。

## 9. 映像シアター



富士山を見ることができない日でも美しい富士山を楽しんでいただけるよう、265インチスクリーンに4K画質で、現在は下記の2番組を上映しています。

天の巻…富士山の自然に焦点を当てた映像で、四季折々で異なる表情を見せる富士山をダイナミックな映像でご覧いただけます。

地の巻…信仰と芸術に焦点を当てた映像で、過去から現代に至るまで多くの人々を魅了する神秘的で美しい富士山をご覧ください。

## 10. 富士山ライブラリー



収蔵されている図書・雑誌等は「富士山」「山岳信仰」「世界遺産」などに特化しためずらしいライブラリーです。司書資格をもつ職員が常駐し幅広い「富士山」の情報を得る場となっています。

写真撮影：平井広行（展望ホールを除く）



## 静岡県富士山 世界遺産センター

<https://mtfuji-whc.jp>

◀ 擬似登山を体験できる  
らせんスロープ。

▼ 外観の建物は  
「逆さ富士」を表現。

所在地 静岡県富士宮市宮町5-12  
 TEL 0544-21-3776  
 開館時間 9:00～17:00 (7, 8月は18:00)  
 休館日 毎月第3火曜日、施設点検日  
 観覧料 300円 (団体割引あり)  
 70歳以上、大学生等以下、障がい者は無料(要証明)  
 企画展は別途料金を設定  
 アクセス JR身延線富士宮駅から徒歩8分  
 新東名高速道路新富士ICから約10分、  
 東名高速道路富士ICから約15分



### 生活科・総合通信 そよかぜ通信 【2018年 秋号】2018年8月31日 発行

編集：教育出版株式会社編集局  
印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋  
発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (内容について)  
URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp> 03-3238-6901 (配送について)



### なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命ののびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003	札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011	函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011	名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051	広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004	松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007	福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155	那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」ののっとり、配付を許可されているものです。